

配信先：文部科学記者会、科学記者会、山形県政記者クラブ、科学新聞社

解禁日：2024年8月28日（11時以降）

2024年8月26日

報道機関 各位

一般社団法人日本地質学会

新たに採択された地質遺産サイト（Geoheritage）

後世に語り継ぐべき世界の地質遺産

9月10日に説明会開催

【発表のポイント】

- 国際的に認知された日本の地質遺産サイト Geoheritage^(注)（ジオヘリテージ、以下、地質遺産）の新規採択2件が決定しました。
- 1箇所目は長崎県雲仙・普賢岳の平成新山溶岩ドーム、2箇所目は鹿児島県の喜界島です。

【概要】

国際地質科学連合（International Union of Geological Sciences, 以下 IUGS）は、地質遺産の新たなサイト 100 件が韓国、釜山で開催された IGC（国際地質学連合、8月26日から30日開催）で公表され決定しました。この決定に関して IUGS の日本の活動拠点である日本学術会議 IUGS 分科会から報告させていただきます。新たに採択されたサイトには日本の 2 箇所も含まれております。1 箇所目は長崎県雲仙・普賢岳の平成新山溶岩ドーム、2 箇所目は鹿児島県の喜界島です。今回、日本の 2 カ所が選ばれたことは非常に名誉なことであり、今後、国内の地球科学的研究の活性化が期待されるのみならず、皆様への啓蒙活動や観光資源としても役立つことが期待されます。

【詳細な説明】

採択サイトと採択理由は以下のとおりです。

(1) 平成新山溶岩ドーム（長崎県 雲仙）

雲仙岳の普賢岳周辺で 1991 年から 1995 年にかけて大規模な火山活動が起こり、新たに平成新山溶岩ドームが形成されました。この溶岩ドームの成長過程は、テレビなどの画像でモニタリングされるなど、火山噴出物として最も詳細に研究されているサイトです。さらに国際大陸掘削計画（ICDP：International Continental Drilling Program）において普賢岳内部の掘削調査も行われ、マグマがどのような状態にあるのかなど科学的に重要な知見が解明されているサイトであります。さらに 1991 年の火砕流によって生じた人的被害の状況も遺構や博物館を通して後世に残し言い伝える努力も行われております。



図 1. 平成新山溶岩ドーム（長崎県、雲仙市）©中田節也

(2) 喜界島

鹿児島県大島郡喜界町の喜界島では珊瑚礁が長い年月をかけて発達しています。中でも化石となった珊瑚には過去 10 万年間の地球環境の変遷、気候変動、生態系変化の歴史が刻まれています。完新世（約 1 万 2 千年前から現在までの時代）の日本周辺の気候変動は、ヒマラヤ山脈の成長と連動したとされています（アジアンスーンと呼ばれている）。こうした気候変動の様子が喜界島の化石化した珊瑚から詳細に読み取ることができます。さらに喜界島は激しい隆起によって過去の時代の珊瑚（本来は海底に水没）が、段丘状に露出し、地表でも容易に観察できるのが大きな特徴であります。これらは独特の景観を作り出しております。



図 2. 喜界島の海岸に見られる珊瑚礁段丘（鹿児島県）©山崎敦子

地質遺産の新規サイト決定とは別に、Heritage Stone（世界石材遺産）も 2025 年に採択されております（すでに決定、公表済み）。Heritage stone は、後世に語り継ぐべき石を選んで、世界に公表しているものです。日本からは「筑波山塊の花崗岩」の 1 件が採択されております。筑波山塊の花崗岩は日本の歴史を考える上で重要な岩石です。古くから稲田石、真壁石や加波山花崗岩（御影石）としても知られ、鎌倉時代には石仏や灯籠の材料として使われてきました。近世では東京駅、明治神宮、赤坂迎賓館などの石材としても使用されています。

【地質遺産説明会の開催】

今回の決定に関する記者向け説明会および次回の公募に対する一般向け説明会を IUGS 分科会主催（説明者、掛川委員長）で行う予定です。2024 年 9 月 8 日から 10 日にかけて山形大学で開催される日本地質学会の会場で行います。こちらを併せてご案内させていただきます。記者の方々の参加登録料は無料となっております。

「新たに採択された地質遺産説明会」

場所：山形大学 日本地質学会会場（山形県山形市小白川町 1 丁目 4-12）

日時：9 月 10 日（火曜日）12:30～13:30、口頭発表会場 1（112 教室）

申込方法：直接現地にお越しください。記者である旨を受付に申し出てください

い。

連絡先：掛川武(kakegawa@tohoku.ac.jp)

【特記事項】

- 本件は8月28日の11時以降に報道解禁になります。
- 写真の使用に関しては以下の方々にクレジットがあり、使用時は事前許可をお願いします。
 - 平成新山：中田節也（防災科学研究所）nakada@bosai.go.jp
 - 喜界島：山崎敦子（喜界島サンゴ礁科学研究所）zaki@kikaireefs.org
 - 筑波山塊花崗岩：杉原 薫（つくば市ジオパーク室）
sugihara.kaoru298@gmail.com

【用語説明】

Geoheritage（ジオヘリテージ、地質遺産）：

IUGS（<https://iugs-geoheritage.org>）の元にコミッション（検討委員会）が設置され、世界地質遺産の指定を通して地球科学の国際的研究の啓蒙と一般向けアウトリーチ及び教育への波及効果を目的としている。第1回目の選考で世界中から100サイトが選ばれた。その中で日本からは野尻断層（兵庫県淡路島）と玄武洞（兵庫県豊岡市）が登録されている。100カ所の説明はwebページで紹介されると同時に、一般向けガイドブックとしても出版されている。今回、新たに選ばれたサイトも同様にwebページやガイドブックとして紹介される予定である。

IGC; International Geological Congress： 国際地質学連合

世界遺産との違い

世界遺産もジオヘリテージもユネスコが関連しているが、ジオヘリテージはIUGSが主導して決められている。ジオヘリテージは学術的価値の高い地質に特化している。IUGSはいわば地球科学関係の最高決定機関で、過去にもチバニ안의認定などを行っている。IUGSは参加国が代表を送り合議のもと運営されているので、今回の採択は国際社会から認められたサイトと言える。

【問い合わせ先】

（地質遺産に関すること）

東北大学大学院理学研究科地学専攻

日本学術会議地球惑星委員会

IUGS 分科会委員長

教授 掛川 武（かけがわ たけし）

Email : kakegawa@tohoku.ac.jp

（電話での問い合わせの場合は事前にメールで
ご連絡ください）

（報道に関すること）

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15

（社）日本地質学会事務局

電話 03-5823-1150 ファックス 03-5823-1156